

29年1月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 1月1日～ 29年1月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		29/1月	29/2月	29/3月
伐採動向	スギ	50.0	40.0	10.0
	ヒノキ	12.5	12.5	12.5
	カラマツ	25.0	25.0	0.0
	エゾ・トド	△ 16.7	33.3	16.7
出荷・販売動向	スギ	40.0	50.0	10.0
	ヒノキ	0.0	16.7	0.0
	カラマツ	25.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	△ 33.3	16.7	33.3
手持立木在庫動向	スギ	0.0	△ 20.0	△ 10.0
	ヒノキ	0.0	0.0	△ 16.7
	カラマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 50.0
	エゾ・トド	0.0	△ 16.7	△ 50.0

・スギ、ヒノキ原木の伐採は3ヵ月連続して増加。カラマツは1月、2月の増加が、3月は横ばい。エゾ・トドは1月の減少が、2月、3月は増加。

・スギ原木の出荷は3ヵ月連続して増加。ヒノキは1月の横ばいが2月は増加、3月は再び横ばい。カラマツは1月の増加から、2月、3月は横ばい。エゾ・トドは1月の減少が、2月、3月は増加。

・スギ及びエゾ・トドの立木手持在庫は1月の横ばいが、2月、3月は減少。ヒノキは1月、2月の横ばいが、3月は減少。カラマツは3ヵ月連続して減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・当月に国有林の間伐請負事業が終了し、翌月から国有林の立販のトドマツ間伐に入る。立販物件は径級が太いので生産性が上がる。翌月以降は伐採増加(北海道)。
- ・間伐、主伐の増加を予定(関東)。
- ・社有林の伐採、搬出(中部)。

(出材・販売動向)

- ・翌月以降は、太い物件を伐採するので、出材はやや増加、工場は素材の在庫が少ないので、運材車の手配がつくと販売もやや増加(北海道)。
- ・調整なし(東北)。
- ・間伐、主伐の増加(関東)。

(手持立木在庫)

- ・立販物件の伐採が進むと手持立木在庫はやや減少する。来年度、立木公売で応札する(北海道)。